

光村図書「書Ⅱ」 年間指導計画資料

38 | 光村 | 書Ⅱ | 704

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
巻頭					
4 月	3	王羲之の書 [教科書 表 2- P.2]	B(鑑賞) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 王羲之の書の比較・鑑賞を通して、楷書、行書、草書の各書体に精通した表現の多彩さを感じ取る。 ② 各作品が作られた経緯や所蔵の履歴に触れ、王羲之の足跡について理解する。	(1)・「書道Ⅰ」で学習した書道の三分野それぞれの、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 (2)・漢字の古典や仮名の古筆、創造された作品の価値と根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3)・芸術科書道への関心・意欲を高め、主体的に創造的な鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
		三色紙 [教科書 P.3-5]	B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 三色紙の比較・鑑賞を通して、散らし書きなどの構成方法や表現効果について理解する。 ② 連綿の美と余白の美の相乗効果について鑑賞し、理解を深める。	
		広がる書の表現 [教科書 P.6-7]	B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 現代のさまざまな書の表現を鑑賞し、自由で個性豊かな書の魅力を感じ取る。 ② 好きな作品を一つ選び、選んだ理由や受ける印象をグループで話し合う。 ③ それぞれの表現のよさを深く味わうとともに、臨書や鑑賞、創作の学習への見通しをもつ。	
1 漢字の書					
4 月	1. はじめに				
	1	個性豊かな漢字の姿 [教科書 P.10-11]	B ア(ア) (イ) イ(ア)(イ) (ウ)(エ) 共通ア・イ	① 漢字の五書体の変遷と、その歴史的背景を理解する。 ② 各書体の字形や線質の特徴を捉え、古典の豊かな個性を味わう。	(1)・各書体の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書の特徴とその歴史、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 (2)・漢字の古典の価値と根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3)・主体的に漢字の書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
5 月	2. 篆書				
	6	泰山刻石 [教科書 P.12-13]	A(表現)② ア(ア) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 教科書 P.12「泰山刻石」(小篆)を鑑賞し、縦長で左右相称の字形や均一な線の太さ、正確な点画の配置などがもたらす洗練された書風を感じ取る。 ② 「泰山刻石」が作られた経緯や書風、内容と大意、公式書体としての小篆について理解する。 ③ 教科書 P.13「学習のめあて」を参考に、篆書(小篆)の基本点画の用筆・運筆を確認する。 ④ 基本点画を繰り返し書き、藏鋒や中鋒など、特徴的な用筆・運筆を習得する。 ⑤ 書体に即した用筆・運筆を意識して臨書する。	※教科書 P.12-19 (1)・漢字の書を構成するさまざまな要素や、篆書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 ・篆書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体構成の技能を身につける。 (2)・篆書の古典の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫する。 ・篆書の古典の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3)・主体的に創造的な表現と鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
5 月		石鼓文 臨石鼓文 [教科書 P.14-15]	A(表現)2 ア(ア) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 教科書 P. 14「石鼓文」(大篆)を鑑賞し、小篆と比較して動きのある書風を感じ取る。 ② 「石鼓文」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ③ 教科書 P. 15 吳昌碩「臨石鼓文」を原本と比較しながら鑑賞し、形臨の末に至った原本にとられない自由な書きぶりを感じ取る。 ④ 「臨石鼓文」が書かれた経緯や書風を理解する。 ⑤ 書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	[1 ページ 参照]
		小臣隳饗尊 甲骨文 [教科書 P.16-17]		① 教科書 P. 16「小臣隳饗尊」(金文)を鑑賞し、絵画的な趣もある造形や縦長の字形、ふくよかな点画などの特徴を理解する。 ② 「小臣隳饗尊」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ③ 教科書 P. 17「甲骨文」を鑑賞し、鋭い線質や直線を主とした点画などの特徴を理解する。 ④ 「甲骨文」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ⑤ 書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	
		[コラム]何のために書くのか？ [教科書 P.18-19]	B イ(イ)(ウ) (エ) 共通ア・イ	① 書き残されてきた文字の具体的な例を分類して鑑賞することで、文字の歴史的な役割を考える。 ② 現代を生きる私たちにとっての「書くことの意味」についてグループで話し合う。	
6 月	3. 隸書				
	5	乙瑛碑 [教科書 P.20-21]	A(2) ア(ア) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 教科書 P. 20「乙瑛碑」を鑑賞し、強調された波磔による重厚感のある書風を感じ取る。 ② 「乙瑛碑」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ③ 教科書 P. 21「学習のめあて」を参考に、波磔など隸書の特徴的な用筆・運筆について確認する。 ④ 基本点画を繰り返し書き、藏鋒や中鋒、波磔など、特徴的な用筆・運筆を習得する。 ⑤ 書体に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	※教科書 P. 20-25 (1)・漢字の書を構成するさまざまな要素や、隸書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 ・隸書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体構成の技能を身につける。 (2)・隸書の古典の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫する。 ・隸書の古典の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3)・主体的に創造的な表現と鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
6月		居延漢簡 曹全碑 石門頌 [教科書 P.22-25]	A(2) ア(ア) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 教科書 P.22-25「居延漢簡」「曹全碑」「石門頌」を比較・鑑賞し、隷書の多彩な表現を感じ取る。 ② 「居延漢簡」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ③ 「居延漢簡」の伸びやかな波磔やリズムミカルでスピード感のある書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ④ 「曹全碑」「石門頌」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ⑤ 「曹全碑」に見られる波磔の装飾的な効果や「石門頌」の素朴でおおらかな味わいを鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ⑥ 書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	[2ページ 参照]
4. 草書					
6		十七帖 [教科書 P.26-27]	A(2) ア(ア) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 教科書 P.26「十七帖」(上野本)を鑑賞し、柔らかで緩急のある格調高い書風を感じ取る。 ② 「十七帖」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ③ 教科書 P.27「学習のめあて」を参考に、点画の連続や省略、柔らかさや線の太細など、教科書 P.27の①②③のポイントを中心に確認する。 ④ 「草書の書き方(例)」を見て、草書の字形には一定の法則があることを理解する。 ⑤ 書体に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	※教科書 P.26-31 (1)・漢字の書を構成するさまざまな要素や、草書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書之美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 ・草書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体構成の技能を身につける。 (2)・草書の古典の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫する。 ・草書の古典の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3)・主体的に創造的な表現と鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
7月		書譜 自叙帖 [教科書 P.28-29]		① 「書譜」と「自叙帖」を比較・鑑賞し、草書の多彩な表現を感じ取る。 ② 「書譜」「自叙帖」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ③ 「書譜」「自叙帖」の、文字の大きさや線の太さ、墨の潤渇などの変化に富む書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ④ 「書譜」「自叙帖」の線質、字形、全体構成の違いを理解する。 ⑤ 書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	
		[コラム]名品になった詫び状 [教科書 P.30-31]	B ア(ア)(イ) イ(ア) (イ)(エ) 共通ア・イ	① 三跡の活躍した時代背景を理解したうえで、藤原佐理の詫び状「離洛帖」「恩命帖」「国申文帖」を鑑賞し、それらに表れた人間味を味わう。 ② 詫び状が名品として認められ、大切に保管されてきた背景を理解する。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
7 月		5. 行書			
	6	集王聖教序 温泉銘 [教科書 P.32-33]	A(2) ア(ア) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 「集王聖教序」と「温泉銘」を比較・鑑賞し、行書の多彩な表現を感じ取る。 ② 「集王聖教序」「温泉銘」が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ③ 「集王聖教序」における王羲之の書風の普遍的な魅力や、「温泉銘」の独特な結構、抑揚に富んだ線質から成る切れ味鋭い書風を鑑賞し、作品の特徴を理解する。 ④ 書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	※教科書 P. 32-39 (1)・漢字の書を構成するさまざまな要素や、行書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書之美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 ・行書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体構成の技能を身につける。
9 月		祭姪文稿 祭伯文稿 争坐位文稿 [コラム]顔真卿の「三稿」 [教科書 P.34-37]		① 教科書 P. 34-36「祭姪文稿」「争坐位文稿」「祭伯文稿」を鑑賞し、筆者・顔真卿の心の動きが伝わるような勢いのある書きぶりを感じ取る。 ② 「祭姪文稿」が書かれた経緯や書風、内容と大意を理解するとともに、顔真卿の人物像や書道史における位置付けを確認する。 ③ 教科書 P. 37 を読んで「三稿」の文章の概要を知り、筆意に表れた筆者の思いや感情を考える。 ④ 「三稿」それぞれについて、文字の連綿や文字の大小、線の太細や抑揚のある運筆などの特色を理解する。 ⑤ 用筆・運筆、字形の特徴を意識して、臨書する。	(2)・行書の古典の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫する。 ・行書の古典の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3)・主体的に創造的な表現と鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
		[コラム]北宋の三大家 [教科書 P.38-39]		① 蘇軾、黄庭堅、米芾が活躍した時代背景や、三人の書道史における位置付けを知り、表現の特色を理解する。 ② 北宋の三大家の作品を鑑賞し、自由闊達で個性豊かな表現を感じ取る。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
9 月	6. 楷書				
	4	薦季直表 爨宝子碑 始平公造像記 張猛龍碑 孟法師碑 樂毅論 [教科書 P.40-45]	A(2) ア(ア) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 教科書 P. 40-45 「薦季直表」「爨宝子碑」「始平公造像記」「張猛龍碑」「孟法師碑」「樂毅論」を比較・鑑賞し、楷書の多彩な表現を感じ取る。 ② それぞれの作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ③ 「薦季直表」の扁平な造形や穏健な書きぶりなどの特色を理解する。 ④ 「爨宝子碑」の跳ね上げるような収筆や隸書の趣を含んだ書きぶりなどの特色を理解する。 ⑤ 「始平公造像記」の切れ味ある点画や肉太な線質、「張猛龍碑」の緊張感が伝わる緊密な点画構成など、北魏の楷書特有の表現について理解する。 ⑥ 「孟法師碑」の力強い点画や重心の低い安定した字形などの特色を理解する。 ⑦ 「樂毅論」の起伏をつけた運筆による雄渾な書きぶりを理解する。 ⑧ 書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	※教科書 P. 40-47 (1)・漢字の書を構成するさまざまな要素や、楷書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書之美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 ・楷書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体構成の技能を身につける。 (2)・楷書の古典の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫する。 ・楷書の古典の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3)・主体的に創造的な表現と鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
		[コラム]タイムスリップ書道史 [教科書 P.46-47]	B ア(イ) イ(イ)(エ) 共通ア・イ	① 「630 年」に注目し、唐の太宗の治世と遣唐使の派遣がもたらした日本の書文化の発展について理解する。 ② 「804 年」に注目し、唐文化の爛熟と空海の入唐が重なることでもたらされた影響について理解する。	
10 月	7. 創作する				
	2	近現代の書を味わおう [教科書 P.48-49]	A(2) ア(ア)(イ) イ(ア) ウ(ア)(イ) B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 近現代の作品を鑑賞し、「筆者が参考にしたと思われる古典」「線質、余白や空間性、表現・構成の効果」「筆者が表現しようとする美と、それを支えている要素」などをグループで話し合う。	※教科書 P. 48-52 (1)・漢字の書を構成するさまざまな要素や、漢字の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書之美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 ・漢字の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成の技能を身につける。 (2)・表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。 ・作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3)・主体的に創造的な表現と鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
	2	座右の銘を書こう [教科書 P.50-51]		① 教科書 P. 50-51 の作例を参考に、座右の銘にふさわしい名句・名言を選ぶ。 ② これまでに学んだ古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。 ③ 試作を重ね、表現を工夫する。 ④ 落款を入れ、作品を仕上げる。 ⑤ 作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	
	1	[コラム]日本文学に登場する能書 [教科書 P.52]		① 三跡の描写を古文表現のまま音読して味わい、現代語訳を読んで内容を確認する。 ② 写本の鑑賞を通して、後世に名を残した能書の人物像について理解する。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
仮名の書					
10 月	1. 古筆に学ぶ				
	8	高野切第一種 [教科書 P.54-57]	A(3) ア(ア) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 教科書 P. 54-55「高野切第一種」を鑑賞し、連綿や墨継ぎによる表現の美を感じ取る。 ② 「高野切」の伝来と「第一種」「第二種」「第三種」の意味、和歌の内容と大意、書風について理解する。 ③ 意連・形連のしかたや墨継ぎの場所を確認し、その効果を理解する。 ④ 短冊の書式を理解する。 ⑤ 書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	※教科書 P. 54-67 (1) 仮名の書を構成するさまざまな要素や、仮名の古筆の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 ・仮名の古筆に基づく効果的な表現の技能、墨継ぎや散らし書き等による全体の構成の技能を身につける。 (2) 仮名の古筆の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫する。 ・仮名の古筆の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3) 主体的に創造的な表現と鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
11 月		「高野切」の書風を見てみよう 第一種／第二種／第三種 [教科書 P.58-59]		① 「高野切」の「第一種」「第二種」「第三種」を鑑賞し、比較を通して気づいた書風の違いをグループで話し合う。 ② 感じた書風の違いを、用筆・運筆、字形や連綿などの観点から確認する。	
		平仮名・変体仮名 [教科書 P.60-61]		① さまざまな平仮名と変体仮名の書き方を習得する。	
	2	表現を比べよう 本阿弥切本古今和歌集 関戸本古今和歌集 [教科書 P.62-63]	A(3) ア(ア) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) (イ) イ(ア) (イ)(エ) 共通ア・イ	① 同じ和歌を書写した「本阿弥切本古今和歌集」と「関戸本古今和歌集」を比較し、仮名の組み合わせ方による表現の広がりを感じ取る。 ② 「本阿弥切本古今和歌集」の狭い字間、筆の回転を多用したリズムカルな運筆などの特色を理解する。 ③ 「関戸本古今和歌集」のゆったりとした側筆の運筆と軽快な連綿線の対比などの特色を理解する。 ④ 「本阿弥切本古今和歌集」「関戸本古今和歌集」の伝来や、和歌の内容と大意、書風や料紙について理解する。 ⑤ 平仮名と変体仮名の組み合わせによる表現の違いを理解し、書風に即した用筆・運筆を意識して臨書する。	
12 月	2	自然を生かした紙面構成 元永本古今和歌集 [教科書 P.64-65]		① 「元永本古今和歌集」を鑑賞し、雁行や藤棚に見立てた散らし書きの構成美を感じ取る。 ② 表現形式に応じた紙面構成の特徴を理解して、臨書する。	
	2	多彩な表現を楽しもう 香紙切 針切 [教科書 P.66-67]	A(3) ア(ア) イ(ア)(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) (イ) イ(ア) (イ)(エ) 共通ア・イ	① 「香紙切」「針切」を鑑賞し、比較を通して古筆の多彩な表現効果を感じ取る。 ② 「香紙切」の大胆な連綿や線の太細、疎密の変化などの特色を理解する。 ③ 「針切」の細く鋭い線質、多字数にわたる連綿などの特色を理解する。 ④ 「香紙切」「針切」の伝来や、和歌の内容と大意、書風や料紙について理解する。 ⑤ 書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
1 月		2. 創作する			
	6	用具・用材による変化を楽しもう [教科書 P.68-69]	A(3) ア(ア)(イ) イ(ア) ウ(ア)(イ) B ア(ア) (イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 一人の筆者による多彩な作品を鑑賞し、用具・用材や、墨の濃淡・潤渇による表現の違いを捉える。 ② 用具・用材による表現の違いを理解し、創作につなげる。	(1) 仮名の書を構成するさまざまな要素や、仮名の古筆の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書之美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 ・仮名の古筆に基づく効果的な表現の技能、墨継ぎや散らし書き等による全体の構成の技能を身につける。 (2) 仮名の作品の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。 ・仮名の作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3) 主体的に創造的な表現と鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
		百人一首を書こう [教科書 P.70-71]		① 百人一首から好きな一首を選び、これまでに学んだ古筆を参考にしながら作品の構想を練り、表現の意図や形式に応じて、連綿と墨継ぎ、平仮名と変体仮名との組み合わせ、用具・用材、紙面構成などを考える。 ② 試作を重ね、表現を工夫する。 ③ 落款を入れ、作品を仕上げる。 ④ 作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	
		【コラム】料紙を作ってみよう [教科書 P.72]	B ア(イ) イ(イ) 共通ア・イ	① 身近な道具を活用して、「墨流し」や「ぼかし染め」に取り組み、創作への関心・意欲を高める。	

漢字仮名交じりの書					
1 月	1. 古典・名筆に学ぶ				
2 月 3 月	4	風景を書で表現する [教科書 P.74-77]	A(1)全て B ア(ア) (イ) イ(ア)(エ) 共通ア・イ	① 教科書 P. 74-77 の書作品を鑑賞し、それぞれの作品から受ける印象や、作品に表現された風景について想像したことを、グループで話し合う。 ② 受けた印象や想像した風景が、どのような表現の工夫によるものか、紙面構成や用具・用材などの観点から確認する。 ③ 著作権について確認する。	(1)・漢字仮名交じりの書を構成するさまざまな要素や、名筆や現代のさまざまな書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じりの書の特質とその歴史、書之美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 ・目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、漢字と仮名の調和等による全体の構成の技能を身につける。 (2)・目的や用途、表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現、現代に生きる創造的な表現について構想し工夫する。 ・創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3)・主体的に創造的な表現と鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
		古典の書風を生かそう [教科書 P.78-81]		① 教科書 P. 78-81 の書作品を鑑賞し、「賀蘭汗造像記」「居延漢簡」「松風閣詩巻」「草書諸上座帖巻」それぞれの古典が生かされた書風や、漢字と仮名の調和、構成などを分析する。 ② それぞれの表現のよさを味わうとともに、表現効果と参考古典の関係を意識しながら構想を練り、創作する。	
	2. 創作する				
	3	イメージを書で表現する [教科書 P.82-83]	A(1)全て B 全て 共通ア・イ	① 一人の作者による五つの作品を鑑賞し、各作品から受ける印象や、特に惹かれた作品についてグループで話し合う。 ② 受けた印象と表現効果との関わりを、書体・書風、用具・用材や紙面構成などの観点から確認する。	
		直筆で味わう名作 [教科書 P.84-85]		① 文士の直筆原稿を鑑賞し、受ける印象や筆記具、書体の違いなどの観点で、グループで話し合う。 ② 掲出作品や筆者の人物像について理解を深めたうえで、書きぶりや推敲の跡などに表れた筆者の個性を感じ取る。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
2月 3月	3	ポスターを作ろう [教科書 P.86-87]	A(1)全て B全て 共通ア・イ	① 教科書 P. 87「創作の手順」を参考に、書と絵や写真との効果的な組み合わせ方を工夫し、郷土をPRするポスターを制作する。 ② 作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	[7 ページ 参照]
		[コラム]良寛の書 [教科書 P.88]		① 良寛の書（手紙）を鑑賞し、伸びやかで素朴な味わいを感じ取る。 ② 手紙の内容や、良寛の人物像を理解する。	

篆刻・刻字／書道史					
2 月 3 月	1. はじめに／2. 創作する				
	1	多彩な印の表現 さまざまな書体で見る姓名印 [教科書 P.90-91]	B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 教科書 P. 90 の印を鑑賞し、多彩な印の表現とその魅力を味わう。 ② 歴史の中で印が担ってきた役割を知る。 ③ 教科書 P. 91 のさまざまな書体による姓名印を鑑賞し、用いる書体による印象の違いをグループで話し合う。	(1)・篆刻や刻字を構成するさまざまな要素、書体・書風や配字等による表現の効果を理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 ・目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、書体・書風、配字等による全体の構成の技能を身につける。 (2)・篆刻や刻字の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。 ・作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・主体的に創造的な表現と鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
	3	＜篆刻＞姓名印を刻してみよう [教科書 P.92-93]	A 全て B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 朱文印の制作手順を理解する。 ② 書体や書風、配字による表現の効果を理解して、感興や意図に応じて構想を練る。 ③ 仕上がりをイメージして、表現や構成を工夫する。 ④ 制作した作品を相互に批評し、表現や構成についてよい点を発表する。	
		＜刻字＞表札を彫ってみよう [教科書 P.94-95]	A 全て B ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) (エ) 共通ア・イ	① 陽刻の制作手順を理解する。 ② 書体や書風、構成、刻し方、彩色による表現の効果を理解して、感興や意図に応じて構想を練る。 ③ 仕上がりをイメージして、表現や構成を工夫する。 ④ 制作した作品を相互に批評し、表現や構成についてよい点を発表する。	
資料					
適宜	適宜	書の特徴と歴史 [教科書 P.96-97]	B 全て	① 漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の成立と、その歴史的経緯について理解する。 ② それぞれの書の特徴を捉え、それらが社会や文化に与える影響について理解する。	(1)・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の特徴とその歴史、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深める。 (2)・作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉える。 (3)・主体的に創造的な鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
		【発展】 書道史略年表 [教科書 P.98-102]		① 日本および中国の歴史と書作品との関連を理解する。 ② 書を鑑賞する際には、書かれた時代や風土、文化との密接な関わりにも注目すべきことを理解する。	
		日本・中国書道関係地図 [教科書 P.103]		① これまでに学んできた日中の古典・古筆の名跡の収蔵先を地図で確かめる。	